

平成 29 年度第 2 回 富山県固定資産評価審議会 議事概要

- 1 日 時 平成 30 年 2 月 20 日 (火) 10:00~11:00
2 場 所 富山県民会館 509 会議室
3 出席委員 唐渡委員、小泉委員、服部委員、谷井委員、酒井委員、土開委員、
干野委員、澤崎委員 (代理: 笠谷 富山税務署副署長)、
水上委員 (代理: 廣上 高岡市総務部次長・納税課長)、
梅津委員、滝委員 (代理: 石黒 富山県経営管理部次長)

(11 名出席)

<事務局 (県経営管理部市町村支援課) >

太田課長、石田係長、渡邊主事、杉本主事

4 概 要

(1) 挨拶

(2) 議 事

平成 30 年度の土地 (宅地、田、畑及び山林) の総評価見込額及び提示平均価額
(案) について

(事務局より説明)

(3) 審議結果

原案どおり了承された。

<委員からの主な意見、質疑応答>

【総地積の減少について】

平成 27 年度実績から平成 30 年度 (案) の宅地の総地積について、朝日町で減少しているのはなぜか。

→ 町が公共用地等を取得したことによる非課税地成りの影響と考えられる。

【評価額について】

宅地の評価額を上昇又は下落させる場合に、上限や下限の目安はあるのか。

→ 宅地については、地価公示価格・鑑定評価価格の 7 割を目途に評価することとされており、上限・下限は設けられていない。

なお、評価額が急激に上昇した場合には、納税者の負担感に配慮し、税負担の上昇をゆるやかに抑制するため、税額の基礎となる課税標準額を調整する「負担調整措置」が設けられている。

以上